

気候変動を含む地球環境と健康との関係に関する研究
研究分担者 勝間 靖 早稲田大学

研究要旨

WHO では、気候変動の健康への悪影響を回避・軽減するために適応策が注目された。他方、温室効果ガスを減らす緩和策は、国連気候変動枠組条約（UNFCCC）締約国会議（COP）の中心課題である。

本研究では、適応策で想定される健康の課題が、いかに拡大してきたかを解明することを目的とする。その研究方法として、グローバルヘルス外交の舞台として、WHO、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）、UNFCCC-COP を見る。そこでの多国間外交に注目し、採択文書を分析する。

研究結果として、以下のことが確認できた。第1に、WHO が気候変動を優先課題としたのは2008年以降である。この年、世界保健デーのテーマは「気候変動と健康」で、世界保健総会において気候変動と健康に関する決議が採択された。2009年、最初の「気候変動と健康に関する作業計画：2008-2013」が策定された。第2に、WHO は『健康、環境、気候変動に関する世界戦略』（2020）を刊行した。WHO は、加盟国が脆弱性・適応策アセスメントを実施し、気候変動適応計画（NAP）に保健適応計画（HNAP）を含めるよう支援している。第3に、IPCC は、2022年の第2作業部会第6次評価報告書（AR6）で、初めて、メンタルヘルスとウェルビーイングを健康影響評価に取り入れた。

以上のようなWHO と IPCC における議論を踏まえて、UNFCCC-COP では気候変動と健康に関わるグローバルヘルス外交が展開し始めた。2021年のCOP26で、「COP26健康に関するプログラム」が立ち上げられた。2023年のCOP28で、初めて「健康の日」が設定され、環境大臣と保健大臣の合同会議が開かれ『COP28気候と健康に関するUAE宣言』が採択されたが、そこでメンタルヘルスへの言及がある。2025年のCOP30では、「ベレン健康行動計画」が立ち上げられ、『COP30健康と気候変動に関する特別報告書』が刊行されている。

A. 研究目的

気候変動の健康への悪影響を回避・軽減するため、WHO では、とくに適応策が注目された。他方、温室効果ガスを減らす緩和策は、国連気候変動枠組条約（UNFCCC）締約国会議（COP）の中心課題だが、保健医療分野でも注目される。

適応策において、当初、気温上昇による直接的影響に関心が集まった。熱中症と熱関連死亡や、洪水や暴風雨による溺水と外傷がある。他方、間接的影響は、水や食物を由来とする感染症（下痢症）、病原体を媒介する蚊やマダニの生息域の拡大による感染症（マラリア、デング熱）、食料や水の不足による栄養性疾患、光化学オキシダント濃度の上昇による呼吸器系疾患など、身体的な健康が注目される。近年、メンタルヘルスやウェルビーイングにも関心が高まった。適応策で想定される健康の課題が、いかに拡大してきたかを解明する。

B. 研究方法

グローバルヘルス外交の舞台として、WHO、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）、UNFCCC-COPを見る。そこでの多国間外交に注目し、採択文書を分析する。

（倫理面への配慮）

特になし

C. 研究結果

第1に、WHO が気候変動を優先課題としたのは2008年以降である。この年、4月7日の世界保健デーのテーマは「気候変動と健康」で、世界保健総会において気候変動と健康に関する決議が採択された。2009年、WHO 執行理事会は、最初の「気候変動と健康に関する作業計画：2008-2013」を支持し、その後、「2014-2019」と「2019-2023」の作業計画を策定した。

第2に、WHO は『健康、環境、気候変動に関する世界戦略』（2020）を刊行し、SDGs達成へ向けて保健分野の目的を設定した。WHO は、加盟国が脆弱性・適応策アセスメントを実施し、気候変動適応計画（NAP）に保健適応計画（HNAP）を含めるよう支援している。

第3に、IPCC は、2022年の第2作業部会第6次評価報告書（AR6）で、初めて、メンタルヘルスとウェルビーイングを健康影響評価に取り入れた。異常気象などの環境変化がストレスの要因と指摘された。

D. 考察

以上のようなWHO と IPCC における議論を踏まえて、UNFCCC-COP では気候変動と健康に関わるグローバルヘルス外交が展開し始めた。

2021年のグラスゴーでのCOP26で、英国は、WHO と協力し、「COP26健康に関するプログラム」を立ち上げた。気候変動に対して強靱で、脱炭素で持続可能な保健システムに関するイニシアティブが含まれていた。

その後、2023年にドバイで開催されたCOP28で、初めてCOPにおける「健康の日」が設定され、環境大臣と保健大臣の合同会議が開かれた。そこで採択された『COP28気候と健康に関するUAE宣言』では、メンタルヘルスへの言及がある。

さらに、2025年にブラジルで開催されたCOP30では、「ベレン健康行動計画」が立ち上げられた。そして、それを含めた『COP30健康と気候変動に関する特別報告書』が刊行されている。

E. 結論

気候と健康との関係において、『UAE宣言』は分岐点として位置づけられる。これまで、身体的な健康が中心であったが、AR6を根拠として、今後のHNA Pには、身体的な健康のほか、メンタルヘルスやウェルビーイングを含めることが期待される。

F. 健康危険情報

特になし

(分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入)

G. 研究発表

1. 論文発表

- “A systematic review of microplastics perception and its factors: Implications on SDGs,” *Sustainable Futures*, Volume 10, December 2025, 101417 [DOI: <https://doi.org/10.1016/j.sft>

[r.2025.101417](https://doi.org/10.1016/j.sft)] (共著)

2. 学会発表

- Yasushi Katsuma, “Human security and the health impacts of ocean plastic pollution: Interlinkages between SDG 3 and SDG 14,” 2025 UN High-level Political Forum on Sustainable Development (HLPF) side event, New York: UNHQ, 18 July 2025.

- Yasushi Katsuma, “Climate change and health: Emerging consensus at the WHO and the UNFCCC-COP,” APRU Global Health Conference 2025, Kuala Lumpur: Universiti Malaya, 30 October 2025.

- Yasushi Katsuma, “Climate change and health: Convergence of ideas at UNFCCC-COP and WHO,” International Studies Association (ISA), Columbus: Greater Columbus Convention Center, 22 March 2026.

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし